

平成21年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470801109	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	三愛ライフネット株式会社			
事業所名	グループホーム三愛			
所在地	( 236-0017 ) 神奈川県横浜市金沢区西柴2-28-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	6	名
		ユニット数	1	ユニット
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1470801109&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1470801109&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出あい、触れあい、分かちあいをテーマに地域に根ざしたグループホームです。入居者様・職員皆で料理や掃除等の家事をしたり、近くの農園に散歩したり、自由でのんびりした生活の中で自発的な行動を呼び戻していただいています。また、入居者様の高齢化に伴い、病状の変化・認知症の進行も顕著となってきています。そのような状況下で、看護職員を配置し、医療機関との連携強化を図りつつ、職員全体が入居者一人ひとりの状況の把握と対応策を理解し、徹底するよう努めています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト 3階		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価機関 評価決定日	平成22年4月28日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜アットホームな暮らしと地域の人とのふれあいを大切にしています＞  
住宅街の高台にあり、建物はホームという感じは無く2階建ての普通のお宅に見えます。1階のリビングは日当たりが良く、そこから続くウッドデッキは利用者の憩いの場となっています。2階は天窓から光が注ぎ風通しも良くなっています。また天気の良い日は窓からは房総半島や富士山が望めます。  
職員と利用者は日々一緒に掃除や食事の支度等を行っています。暖かくなるとウッドデッキのプランターにお花を植えたり、きゅうりの栽培を行っています。また、毎月1回は会長主催の昼食会を行っています。外出も多く、散歩や買い物・ドライブ・食事会の他、春と秋には日帰り旅行を行い、浅草・江ノ島・油壺・小田原城等へ行ってきました。以前には1泊旅行を行った事もありました。パーティと言われている誕生会やクリスマス会等の行事やお花見・花火大会には家族も参加し楽しんでいきます。  
地域とのふれあいも多く老人会への参加や隔月に行われる地域のふれあいサロンや昼食会も出掛けています。また、地域のお祭りや農園での収穫祭等、ホームという家族が地域の一員として交流をしています。  
職員は利用者の人格を尊重し、思いやりのある言葉掛けや優しい対応を行い、利用者は職員を信頼し家族のように和やかに暮らしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフミーティングの際、入居者一人ひとりの生活状態・課題をケアの方針・理念の視点で捉え具体的な支援、介護方針を、決めている。 また、入居者の日々楽しく安寧な生活を目指している。	理念は目標とともに掲示しており職員は共有しています。ホームは利用者の第二の家庭とし医療機関との連携の基にアットホームで安全、安心、安寧のある暮らしを支援、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会等の活動、行事には極力参加し、交流を深めている。地域からの相談事には、その都度丁寧に対応し、適切なアドバイスをしている。	自治会に加入し、「ふれあい談話室」や地域の祭り、農園の収穫祭等に参加し地域との交流に積極的に取り組んでいます。	推進会議のメンバーである自治会長や老人会（福寿会）、民生委員を通して更に地域との交流拡大と、地域の老人施設としての情報発信基地として機能を発揮されることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の見学時には、認知症高齢者への専門性のある対応などを、日々の具体的なホームでの生活ぶり・介護対応を説明することにより、理解を深めていただけるよう努める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、毎回、各委員に入居者の活動報告書により説明している。その中で、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かしている。	会議は3カ月1回（今後は2カ月1回）開催しています。ホームの活動、運営報告や行事計画、地域との連携、家族代表の意見、要望等活発な討議がなされてホームの改善とサービスの向上に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見人制度の利用・生活保護の申請・精神障害者手帳の申請、及びホームの運営面での法令の判断等を問い合わせ、適切な対応をしている。	行政の福祉担当の定期訪問、地域包括支援センターとの連携、権利擁護制度の活用などの情報交換を行い協力関係の構築に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成22年1月のスタッフミーティングの際、資料を各スタッフに配布し、具体例を出しながら意見交換を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて、再確認している。	職員には拘束のないケアのマニュアルを配布し、意識の啓蒙を図っています。言葉などは職員相互でチェックし拘束のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政等主催の研修会に参加した内容を社内研修で徹底し、各種要因を分析して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム運営に関する専門研修、介護技術の向上につながる外部研修には可能な限り積極的に参加している。ご家族とは、常に情報の提供・相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	平成21年度は入居・退去の方がおらず、契約の締結に至っていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者・職員からの提案・意見を大事にし、利用者個々の適正を把握し、介護計画に反映するようにしている。入居者・ご家族の声は真摯に受け止め、運営面で反映すべきことは、実践している。	家族代表の参加している運営推進会議での要望、意見を積極的に取り上げ、戸外への外出、地域の行事参加等ホームの運営と利用者へのサービス向上に努めています。法人代表も常に巡回して利用者、家族とコミュニケーションを図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの入居者の状況に応じた介護に関する提案・方針・要望は、管理者に申し送り・ミーティング時に提案され、さらに運営者との毎週の定例ミーティングに於いて提案・具申される。	管理者は職員の要望、意見はミーティングや申し送りノートで把握しています。毎週開催する法人代表との運営会議では利用者や職員の要望、意見等が検討されホームの運営、サービスの向上に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者との毎週の定例ミーティングや毎月開催されるスタッフミーティングにより、職員の報告、要望、業務改善提案を積極的に受け入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員に平等に受講させ、意識・理解・対応力を向上し、同質な対応ができることを目指している。研修受講時には研修内容の報告・説明を受け、皆で情報共有している。また、OJTにて即対応力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	情報交換の場として、神奈川県・横浜市主催の連絡会に、出席している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安感をなるべく早く取り除き、安心できる空間になるように個別に収集した情報・要望を元に支援計画を立て、職員間で足並みをそろえた対応が出来るように申し合わせている。また、入居後も生活状況を観察し、支援計画を修正・改善している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話せる雰囲気造りを心がけている。また、必要な情報を共有し信頼関係を作り上げるよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の希望・必要性を判断し、柔軟、且つ速やかに個々に適した対応をしている。また、支援内容も優先順位をつけ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・掃除・散歩などを通して、生活を共にしていることを実感して貰っている。入居者に過剰な「手出し・口出しをしない支援」を心掛け、ゆっくと見守り、出来るようになった事には、共に喜び、支えあう家庭的な雰囲気作りを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを支えていく姿勢で援助計画を作っており、日頃、ご家族への電話連絡、訪問時の近況報告を実施している。同時に、入居者の昔のエピソードを聞き、ホームでの生活支援に役立っている。また通院やレクリエーションにも極力参加して貰っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心の拠り所になっている思いや関係は同じ気持ちで大切にしている姿勢である。お盆や正月等、里帰りしやすいよう、普段からご本人の気持ちを聞き、家族に伝えて、関係が途切れないように支援に努めている。	利用者の希望に添ってお盆や正月の里帰りなどの支援をしています。ホームでの新しい地域とのふれあいや日頃の慣れ親しんだ馴染みの生活で心身の改善が図られ家族からも喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格・思いを把握し、疎外感を感じさせることなく、居心地の良い場面を一つずつ増やすことを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は相談・支援がない状況。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族より一人ひとりの思い・希望を伺い、生活援助計画の作成に当たっている。また、折を見て、再確認も行っている。	本人・家族から思いや希望を伺う他、入所時に利用者を理解する為「入所者の人物像」として今までの生活（子ども時代～老年期）までを記入して頂き、利用者の真の希望や意向の把握に役立てています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報は、入居時、また入居後ご本人より、またご家族の訪問時に話を伺い、把握に努めている。 また、折々ご本人との会話の中で、昔の話を話題にし伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係が作られてくると、本来の生活振りが現われるので、職員全員で観察に注力している。日々の介護の中で、気づいたことは生活支援日誌に書きとめ、情報の共有・把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、本人・家族・主治医・職員の意見をもとに、生活援助計画を立てている。概ね3ヶ月ごとに介護計画を見直している。また、モニタリングは2ヶ月に1回行っている。	毎月2名の介護計画を作成するので、利用者6名の為、3ヶ月毎の見直しとなっています。利用者・家族の意見と共に、職員の意見や日々の個別記録を見直しに活かし介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記載している。記載の中から共有すべきことは、全員に伝わるように、毎日、申し送りを実施している。また、介護計画にも反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて、個別に柔軟に対応している。今後も要望・必要性があれば、希望に沿うように対応する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・区役所のサービス課・ご家族と連携を取りながら、一人ひとりに必要な支援を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、ご家族・担当職員の同席を原則としているが、どちらか不在の場合には、受診時の報告を行い情報を共有している。また、運営推進会議でホームドクターの検討について説明し、12月より月2回の訪問診療を実施している。	かかりつけ医に職員・家族で受診支援が行われていたが、昨年12月より隔週の金曜日に訪問診療の医療機関との協力が得られるようになっていきます。夜間に体調が悪くなっても直ぐに医師と連絡を取る事が出来る為、利用者・家族も安心をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	5月より看護職員を配置しており、より入居者が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、主治医・病院医療相談室・ご家族と十分連絡を取りながら、ご本人の状態・希望に沿った退院後の介護方針計画を作成している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、ご本人の思い・ご家族の意向・主治医の方針を踏まえ、安心でき、納得のいく方針を決めていく。	重度化した場合は利用者・家族の意向を確認し、家族・かかりつけ医と方向性を相談し支援に取り組んでいます。	先年12月より24時間体制の医師との協力が得られましたので、十分に話し合い方針を共有し支援に取り組まれる事が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から看護職員から適切な指導を受けている。また、マニュアルを掲示して、対応できるようにしながら、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回避難訓練を実施している。夏には地域の消防署立会いの下、防災訓練を行った。	6月には消防署の立会いの中、消火訓練を行い、9月は地震を想定、12月は火災を想定し避難訓練を実施しています。近隣の住民への協力依頼もされています。利用者・職員用にヘルメットが用意され防災用具も準備されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しては、信頼と尊敬を持って接する。馴れ合い、無遠慮な言動によるトラブル、個人情報の取り扱いについては、職員間で留意するよう徹底している。	利用者の気持ちを大切に考え、目立たずさりげない言葉掛けやケアを行っています。また資料等も鍵を掛ける等責任のある管理を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者へ接する姿勢として、話を聞くことはもとより、気持ち・思いをくみ取れることを申し合わせている。職員の思い・考えを強要せず、入居者本人の想いの世界に入れるような姿勢で接する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人のペースを大切にしている。希望・要求・苦情があるときは、意向に沿うように援助していく。入居者各人がホームでの生活の中で担える役割、喜んで出来ることを見つけ、互いに生活を支え合う気持ちを醸成している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の起床後や入浴後、整容を援助している。外出の際には、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。また、2ヶ月に1回理美容の訪問を受け、散髪支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下の身体状況や嗜好を配慮し、調理・盛り付けを工夫している。食事中は職員も一緒に食事し、楽しい会話を引き出せるようにしている。また、行事の際には、希望のメニューを聞き、食事を楽しまれるよう支援をしている。	職員は食事の準備・片付けは利用者と一緒にいき、同じテーブルを囲み話をしながら昼食を楽しんでいました。行事の時は利用者の希望のメニューを作り、お花見の時はお弁当を買って出掛ける事もしています。また外食なども行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄・水分チェック表を作成し、活用しながら記入している。栄養バランスは、食材の配達業者に依頼して栄養士によるバランスの取れた食事の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。就寝前の義歯洗浄・消毒を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの使用を極力避ける為、個別の排泄パターンを記録し、適切なタイミングで声掛け、介助している。また、一人でトイレでの排泄が困難な方にも、1日1回トイレでの排泄を支援している。1名は日中はリハビリパンツから綿のパンツに戻し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し誘導を行うと共に、トイレ排泄の困難な利用者も出来るだけトイレでの排泄を支援しています。現在ほとんどの方は排泄の自立ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分補給の励行を行っている。また、極力散歩に誘って、運動への働き掛けをしている。便秘が続く方には看護職員が医師と相談の上、下剤を服用させている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は職員が一对一で、入居者一人ひとりに合わせた介助・見守りを行い、くつろぎ楽しめる安全・安心な入浴を支援している。一人ひとりの要望も聞き入れながら、一人ひとりに合わせた支援をしている。	基本的に1日2名の方が入浴をしていますが、要望があれば対応をしています。入浴をあまり好まれない方でも週に2～3回は入って頂けるよう支援をしています。また、季節に合わせて菖蒲湯なども行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息・睡眠は一人ひとりの希望に沿う形で支援している。居室内の保清・安全にはさりげなく注意し、対応している。居室内での快適な生活・睡眠のために、採光・空調にも、注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より目的や副作用の説明を受けている。また、看護師からも説明を受けたり、薬処方説明書を見て確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の趣向・能力・得手不得手を考慮しながら、皆で楽しむレクリエーション・共同作業を行なっている。職員は場の和やかな楽しい雰囲気づくり・活躍する場づくり、達成感を感じられるように声掛け等の援助をしている。「カラオケセット」を導入し、皆で楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、毎日の散歩、通院、食事会など、一人ひとりの希望に沿い実施している。外出時には、職員或いはご家族が付き添っている。また、今年から本社の車を借用し、定期的買い物や気分転換が出来るように外出の支援を行う。	毎日の散歩や買い物・ドライブ等を利用者の希望に添いながら行っています。その他地域のふれあい昼食会や外食、季節に合わせお花見・花火大会・日帰り旅行等も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い管理は、本人の出来る範囲で小遣い帳・領収書の保存を行って貰う等、一人ひとりに合わせた支援を行なっている。また、金銭管理が困難な方は、グループホームで小遣い帳や領収書を管理し、家族に確認、捺印頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話、または携帯電話で随時、ご家族に連絡している。ご家族との絆を維持するための支援を行なう。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ダイニングのテーブルが、皆で一緒に囲んで食事をしたり、話をしたりする生活の中心になっている。また、ウッドデッキもくつろぎの場となっており、鉢植えなどで工夫している。	共有の空間は掃除が行き届き、清潔に保たれています。リビングは日当たりが良く、2階は天窓から光が注ぎ明るく風通しも良く、また、リビングから出られるウッドデッキはベンチや鉢植え等が置かれ利用者のくつろぎの場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのなじみのものを近くにおいて、居心地良く過ごしていただいている。自分の場所として、テーブルの席を固定している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で大切にしていた、なじみのもの（筆筒・仏壇・座椅子・テレビ・小物等）を置いていただき、安心して過ごせるなじみの空間作りをしている。	利用者が自宅から自由に家具などを持ち込めます。仏具、ミニ椅子・テーブル、テレビなどが置かれ、自宅に近い環境をセッティングする事で混乱をきたさないようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、エレベーター、スプリンクラーの設置等で安全な環境づくりを行ない、各自の身体機能に応じた行動が自由に出来るようになっている。また、短期記憶が欠落している方には、メモや日記の作成を通し、日課や活動の目安を確認できるよう支援している。		

事業所名	グループホーム三愛
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない